

東京女子医科大学「女性医師・研究者のキャリア形成と子育て支援」

【背景】わが国の意思決定権を持つ女性の割合を示す指数 Gender empowerment measure は、世界 109 カ国の 57 位であり、この背景は「ガラスの天井 glass ceiling」、「水漏れパイプ leaky pipeline」に例えられる。東京女子医科大学においても、育児のために医学を断念する若手女性医師は多い。女性研究者、女性教員のロールモデルの不在が（女性）医師不足の原因のひとつとして挙げられる。

女性医師の割合は、初期および後期臨床研修期間の 7 年間までは 50% を超えているが、30 代を過ぎると急速に 40% 以下となり、講師 37%、准教授 19%、教授 16% と、指導的立場の女性医師が先細りになっている。医育機関名簿（2008 年）や日本女医会の調査（2000 年）においても、医学部医学科の講師以上の女性教員の割合は 5% 以下である。医学部医学科における女性研究者、女性教員のロールモデルの不在は女性医師不足の原因のひとつとしても考えられ、女性教員を増やすことはわが国における喫緊の課題といえる。本学の女性医学研究者支援はその意味で、女性医師問題、女性研究者問題の解決のためのモデルとして重要な立場にある。平成 18 年からの文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援の成果を生かし、平成 21 年度からは、女性医師・研究者支援充実をめざして、「男女共同参画推進局（局長：学長）」主導の下に「女性医師・研究者支援センター」が発足し、女性研究者支援を継続している。

【実施状況】女性医師のキャリア形成において 1) 子育て支援、2) 勤務環境改善、3) 意識改革が必要である。「厳しい時期にも医学研究、医療を継続する」という本人の自覚にもつながるように、子育てと研究の両立実施が可能な体制を構築し、困難に直面する女性医師に研究の遂行や診療の継続を可能とするシステム形成を行っている。具体的には、一般保育、病児保育を継続し、さらにファミリーサポートによる支援策を開始した。研究支援としては、短時間勤務制の環境整備を充実させている。

- 1) 短時間勤務制の検討：女性医師の研究領域は、医学の基礎研究と臨床研究である。女性研究者にとって多様な勤務体制の選択肢を整備することは大きな研究支援となる。週 28 時間（4 日間）、週 30 時間、週 32 時間（4 日間）、週 36 時間（5 日間）の短時間勤務体制を常勤扱いとして構成した。さらに平成 24 年度からは学位取得・専門医取得・診療上の特殊技能取得などのキャリア形成支援として臨床系教員のためのテニユアトラックを開始している。
- 2) ファミリーサポート：個別のきめ細やかな子育て支援の目的で設立した。仕事と家庭を両立するための支援策の一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした会員相互の援助活動。対象は全職員と学生を含み、生後 2 か月から 15 歳までの登録した子ども。保育所・幼稚園・学校・学童保育の送迎、保育所の開始前後や放課後・学童保育終了後の預かり、長期休暇時の預かり、習い事・塾などの送迎、病児・病後の預かり、保護者の病気や急用時の預かりなどを行う。平成 26 年度からは東京医科大学との連携プログラムとして、東京医科大学の職員への支援も開始している。
- 3) 卒前教育：「人間関係教育」において、医のプロフェッショナル教育の一環として、「子育て中など、仕事と家庭の両立が厳しい時期にも医学研究を、医療を継続する」という学生の意識改革につながるように、リーダーシップ教育、キャリア教育を開始した。ファミリーサポートにおける学生サポーター養成、女性医師シンポジウムへの学生参加などを実施している。

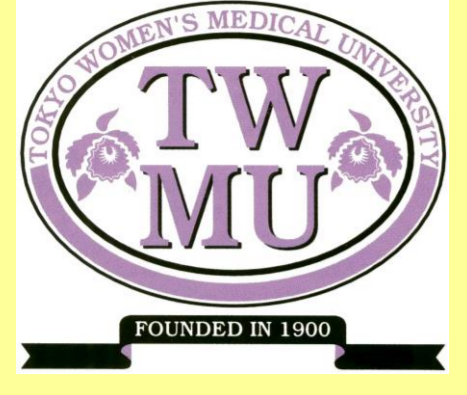
【連絡先】東京女子医科大学 男女共同参画推進局

女性医師・研究者支援センター

TEL:03-5269-7319(内線 8382) FAX:03-3353-6793 E-mail:w-support.bm@twmu.ac.jp

URL : <http://www.twmu.ac.jp/w-support/>

女性医師・研究者のキャリア形成と子育て支援



東京女子医科大学
男女共同参画推進局

女性医師・研究者支援センター

<http://www.twmu.ac.jp/w-support/>

東京女子医科大学

建学の精神・使命

創立者である吉岡彌生は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医療人の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することを建学の精神として、1900年に東京女医学校を創立した。最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことを使命とする。

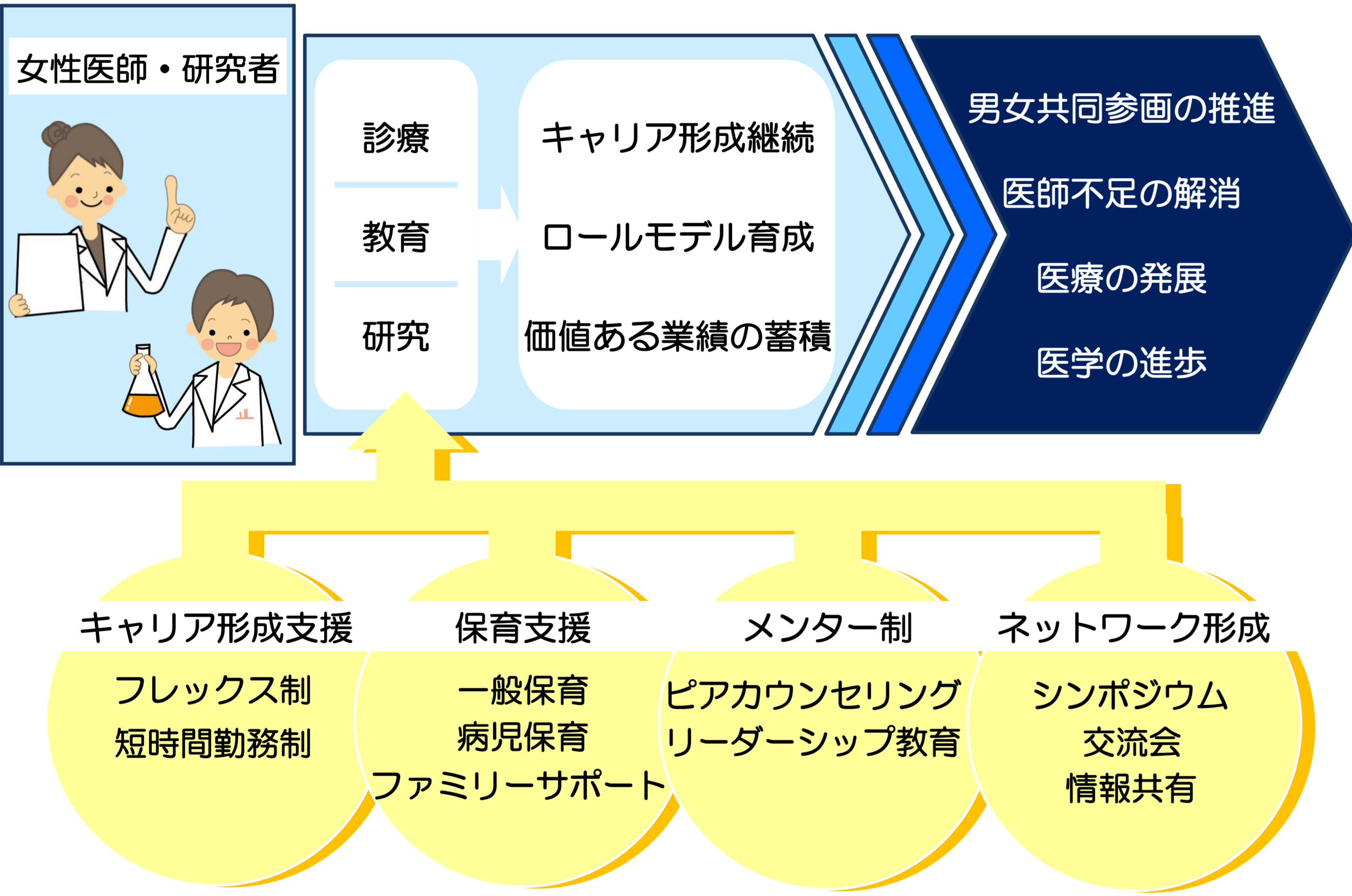


女性医師・研究者支援センター

目的と理念

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献する女性医師・研究者の診療継続および研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備する。

事業内容

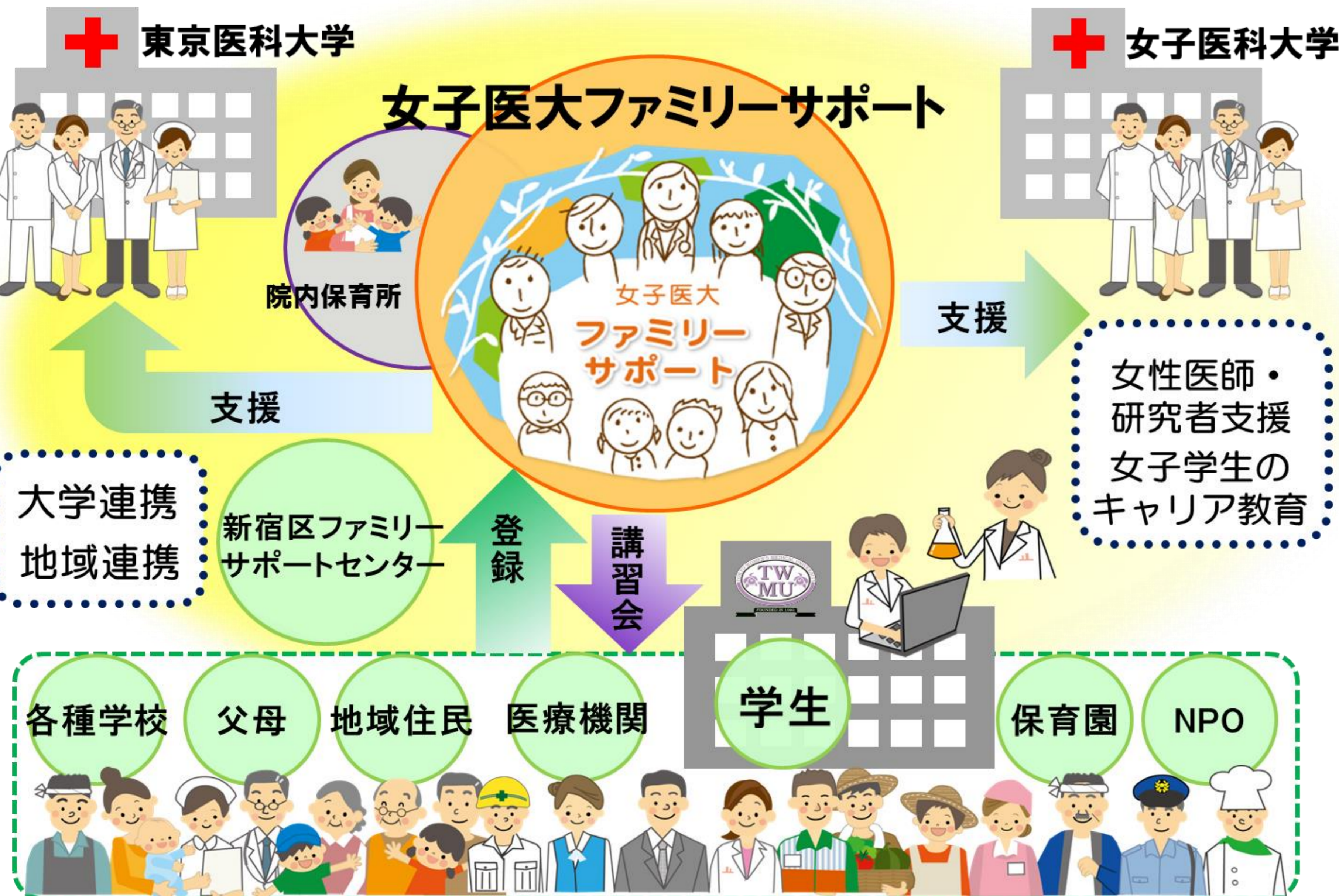


キャリア形成支援: 勤務体制の多様化

女性医学研究者支援	ワークシェア		フレックス制		
	女性研究者支援モデル育成事業 2006-2008	助教以上 週3日 150,000円、社保あり	助教以上 週30時間 180,000円、社保あり	助教以上 週30時間 180,000円、社保あり	
女性基礎研究者支援	佐竹高子女性医学研究者研究奨励金	臨床系教員の短時間勤務 定員内	臨床系教員の短時間勤務 定員外	医療練士研修生の短時間勤務	女性臨床医師支援の短時間勤務
2009-	2011-	2008-	2011-	2011-	2011-
助教以上	助教以上	助教以上		医療練士研修生	准講師以上または卒後10年以上
週30時間	週30時間	週5日 36時間 週4日 32時間 週4日 28時間 週3日 28時間 宿日直 月1回 外勤 週4時間以内	週5日 36時間 週4日 32時間 週4日 28時間 週3日 28時間 宿日直 月2回まで 外勤 週1日以内	週5日 36時間 週4日 32時間 週4日 28時間 週3日 28時間 宿日直 月2回まで 外勤 週1日以内	週5日 36時間 週4日 32時間 週4日 28時間 週3日 28時間 宿日直 月2回まで 外勤 週1日以内
195,000円	195,000円	基準内 8割 7割 6割 賃金の	基準内賃金の 8割	基準内 8割 7割 6割 賃金の	基準内 8割 7割 6割 賃金の
社保あり	社保あり	社保あり		社保あり	社保あり

ネットワーク形成: 他大学および地域との連携

2013年度に東京医大が文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択されたことを機に、女子医大ファミリーサポートを他大学との連携した他、学生のキャリア教育としても発展させている。



キャリア形成支援: 学生キャリア教育

学生教育の中にファミリーサポートの保育サービス講習（第1学年；1コマ、第2学年年；3コマ）を組み込み、医学生に女性医師・研究者支援を通じた、生きたキャリア教育を実施している。

保育支援: 保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2か月～就学前の待機児				3か月～3年生
時間	7:30～18:30	18:30～20:00	20:00～7:30	7:30～18:30	8:00～18:00
料金	200円/時 2年目以降 300円	300円/時 2年目以降 350円	400円/時	300円/時 2年目以降 350円	500円/時

保育支援: ファミリーサポート

	一時預かり保育	病（後）児保育	お泊り保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね2か月～15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土日祝日はなし	19:00～7:00
料金	1時間 800円 19:00以降 900円 (2人目以降は半額)	基本1時間 1,000円	1泊 18,000円 (2人目以降は半額)